

# ◎横浜の鉄道

## その歴史

編集部

明治五年（一八七二年）に日本ではじめての鉄道が横浜を走ってから百二十年余り。鉄道は横浜の都市としての発展に大きな役割を果たしてきたと言える。新橋と横浜でそれぞれ鉄道開業式が行われた十月十四日（太陽暦）が、今年から「鉄道の日」として定められた。ここでは、発祥以来の横浜における鉄道の歩みを振り返ってみる。

### 1 日本で最初の鉄道開業

日本最初の鉄道開業区間については、一般に新橋と横浜間であると思われるが、この区間が開業する四カ月ほど前の明治五年の旧暦五月七日、工事が完了した品川と横浜の間で仮開業されている。この時点では、品川と横浜の間に中間の駅はなく、一日に二往復の旅客列車（翌日から六往復）が運転された。この時の横浜駅（初代横浜駅）は、現在の桜木町駅にあたる。また、一カ月後の六月五日、品川と横浜の間に川崎駅と神奈川駅が開設された。

今年から「鉄道の日」と定められた十月十四日は、旧暦の九月十二日にあたり、明治五年のこの日、横浜と新橋の両駅で明治天皇ご臨席のもと開業式が開かれた。この開業式は雨天により、当初の予定より三日間順延されたの開催であった。新橋と横浜間での営業開始は翌九月十三日からで、この日に鶴見駅が開設されている。

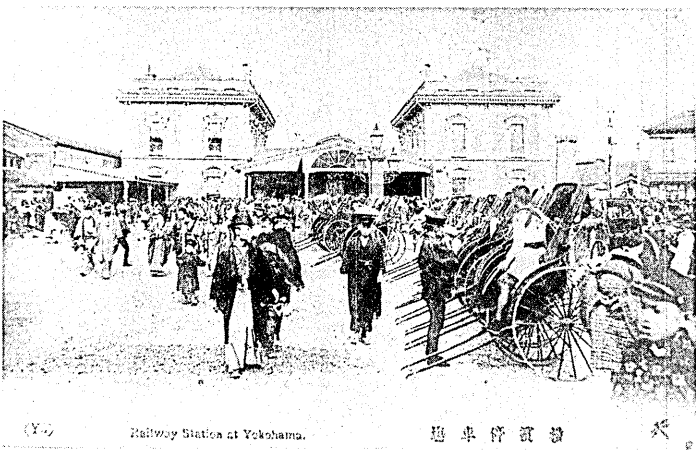
### 2 横浜駅の変遷

#### ① 初代横浜駅（明治五年〜大正四年）

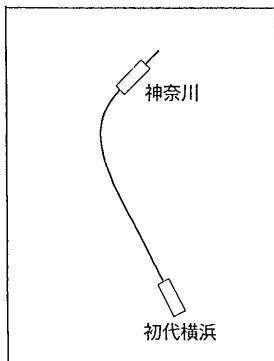
現在の桜木町駅にあたる。駅舎の本屋は木骨石張り二階建て二棟で、開業前年の明治四年九月二日に完成した。この初代横浜駅の敷地は、廃止された旧東横浜貨物駅を含めた広いもので、機関庫や転車台も備えていた。現在、桜木町駅前の地下道入口脇に鉄道発祥記念碑が、また地下道入口の柱に当時の駅長室跡を示す石版が、それぞれ初代横浜駅のあった場所を示している。この初代横浜駅は、大正四年八月十五日、二代目横浜駅の開業と同時に

時に桜木町駅へと改称している。また、同年には、貨物業務が分離され東横浜貨物駅が新設された。当時の駅舎は、関東大震災により焼失している。

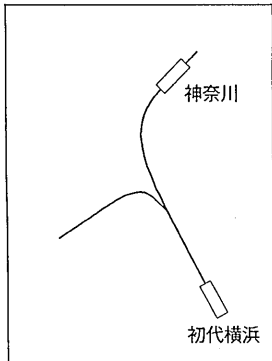
初代横浜駅



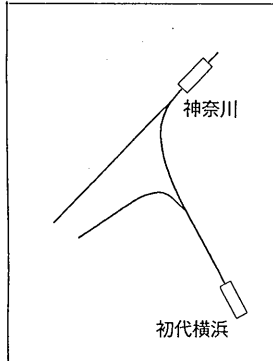
横浜駅の変遷図  
明治5年(1872)



明治20年(1887)



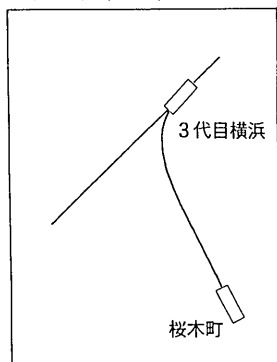
明治27年(1894)



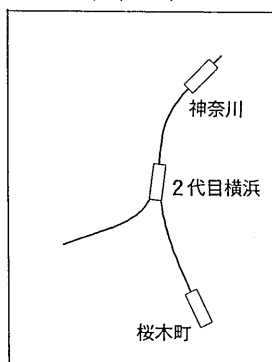
- 1 日本で最初の鉄道開業
- 2 横浜駅の変遷
- 3 市内鉄道各線の沿革

年	月日	項目
1869	明治2年 11.10	東京～横浜鉄道建設の廟議決定
1871	明治4年 9.2	初代横浜駅（現桜木町）の本屋が完成
1872	明治5年 5.7	品川～横浜仮開業（23.8km、所要35分）、1日2往復の旅客列車を運転（翌日から6往復）
	6.5	品川～横浜間に川崎、神奈川の両駅を開設
	9.12	新橋（現汐留）～横浜鉄道開業式（太陽暦10月14日）
	9.13	新橋～横浜営業開始、鶴見駅開設
	(12.3)	<太陽暦採用、この日を明治6年1月1日とする>
1881	明治14年 5.7	鶴見～横浜複線化により新橋～横浜の複線化完了
1887	明治20年 7.11	東海道線：横浜～国府津間開通 程ヶ谷（現保土ヶ谷）、戸塚の両駅が開業
1889	明治22年 (2.11)	<大日本帝国憲法発布>
	(4.1)	<横浜市制施行：人口116,193人>
	6.16	横須賀線：大船～横須賀開通
	7.1	東海道線：新橋～神戸開通（全線開通）
1894	明治27年 (8.1)	<日清戦争が始まる>
	9.-	神奈川～程ヶ谷短絡線（軍事輸送用）完成
1898	明治31年 8.1	神奈川～程ヶ谷短絡線を営業線として使用開始 遠距離直通列車は横浜駅不通過
1899	明治32年 1.21	大師電気鉄道（のちに京浜電気鉄道、現京浜急行）：六郷橋～大師開業
	4.25	大師電気鉄道が京浜電気鉄道に社名変更
1901	明治34年 10.10	神奈川～程ヶ谷短絡線上に平沼駅を開設
1902	明治35年 9.1	京浜電気鉄道：六郷橋～川崎開通
1904	明治37年 (2.10)	<日露戦争が始まる>
	7.15	横浜電気鉄道（のちに横浜市電）が市内電車開業 （神奈川～大江橋）
1905	明治38年 12.24	京浜電気鉄道：川崎～神奈川開通 （品川～神奈川全通）
1908	明治41年 9.23	横浜鉄道（現横浜線）：東神奈川～八王子開通
1910	明治43年 4.1	横浜鉄道を国鉄が借り上げる
1913	大正2年 10.10	2代目横浜駅着工（現東急東横線高島町駅付近）
1914	大正3年 (7.28)	<第1次世界大戦が始まる>
	12.20	東京駅開業、高島町に電車専用仮ホーム開設 東京～高島町で電車運転
1915	大正4年 8.15	2代目横浜駅開業、初代横浜駅は桜木町と改称、高島町と平沼駅、神奈川～程ヶ谷短絡線は廃止
	12.30	東京～横浜の電車運転を桜木町まで延長、桜木町駅貨物業務を分離し貨物専用の東横浜駅を新設
1917	大正6年 10.1	横浜鉄道を国鉄が買収（国鉄横浜線）
1918	大正7年 4.1	2代目横浜駅～桜木町電車専用線の高架複線化完成
1920	大正9年 (10.1)	<第1回国勢調査、横浜市人口422,938人>
1921	大正10年 4.1	横浜電気鉄道を横浜市が買収（横浜市電）
1922	大正11年 10.13	10月14日を「鉄道記念日」と定める

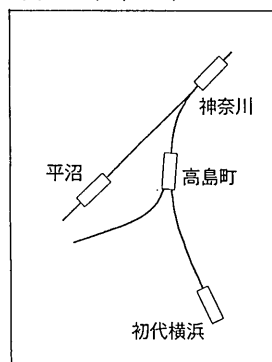
昭和3年（1928）



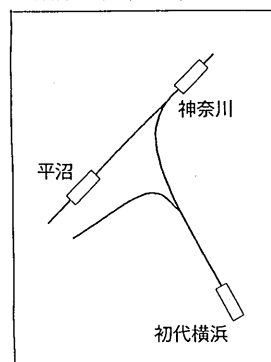
大正4年（1915）



大正3年（1914）



明治34年（1901）



## ② 二代目横浜駅（大正四年～昭和三年）

現在の東急東横線高島町駅付近に位置し、大正四年八月十五日に開業した。駅舎は鉄骨レンガ造り二階建て。洋風のクラシックな外観は、前年に開業した東京駅とよく似ていたが、駅正面を貨物用の高架線が横切っており、せつかくの美観を損ねていた。また、駅の構造としては日本で最初の橋上駅であった。

東京駅の開業と、これにあわせた京浜間での電車運転（京浜東北線のはじまり）に対応するため、二代目横浜駅が開業するまでの間、高島町に電車専用の仮ホームが開設されたが、二代目横浜駅の開業とともに電車は横浜駅に乗り入れ、高島町仮ホームは廃止された。この電車運転は、まもなく桜木町駅まで延長された。

二代目横浜駅の駅舎は、関東大震災により倒壊している。

## ③ 三代目横浜駅（昭和三年～現在）

現在の横浜駅の位置で、昭和三年十月十五日に開業している。ただし、駅舎は開業当時のものが現在は改築（昭和五十五年十一月七日に東口駅ビルが開業）されており、文献によつては現在の横浜駅を四代目とするものもある。開業当時の駅舎のシンボルであった大時計は、現在横浜市電保存館（磯子区滝頭）に保存・展示されている。

三代目横浜駅は、開業後数年の間に私鉄の乗り入れが相次いだ。東京横濱電鉄（現在の東横線高島町）は昭和三年五月十八日に高島（現東横線高島町）まで延伸していたが、三代目横浜駅開業と同時に駅を併設している。京浜

電気鉄道（現在の京浜急行）は昭和五年二月五日、神中鉄道（現在の相模鉄道）は昭和八年十二月二十七日にそれぞれ横浜駅へ乗り入れている。なお、横浜市営地下鉄が乗り入れたのは昭和五十一年九月四日であった。

## 3 市内鉄道各線の沿革

### ① JR（旧国鉄）

#### ⑦ 東海道線・新幹線

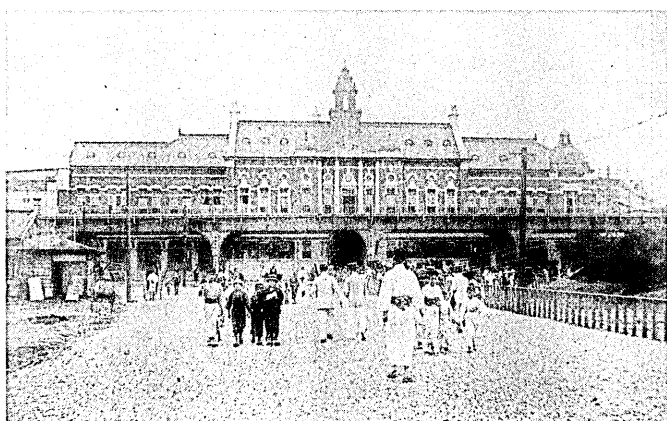
明治五年五月七日（旧暦）、品川～初代横浜間（二三・八キロ）で仮開業されたのが日本の鉄道のはじまりであり、東海道線のはじまりである。明治二十年七月十一日には国府津まで開通、このとき程ヶ谷駅（現保土ヶ谷駅）と戸塚駅が開業している。神戸まで全線

開通したのは明治二十二年であった。なお、東海道線という名称は、明治二十八年に全国の線路名称を統一する際に付けられたものである。

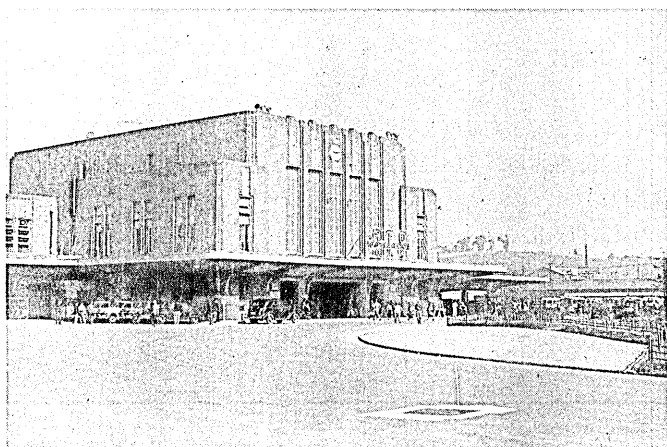
この頃の列車は、初代横浜駅でスイッチバック運転を行っていた。このスイッチバック運転は、神奈川～程ヶ谷の間に短絡線が完成し、営業線として使用される明治三十一年まで続く。この短絡線の供用により、遠距離直通の列車は横浜駅を通過しなくなり、代わりに短絡線上に平沼駅が開設された。その後、大正三年末に東京駅が開業、横浜駅も二代目、三代目と位置を変えている。

東海道新幹線は昭和三十九年十月一日、東京～新大阪間（五一五キロ）で開通、横浜では横浜線との乗換駅として新横浜駅が開業し

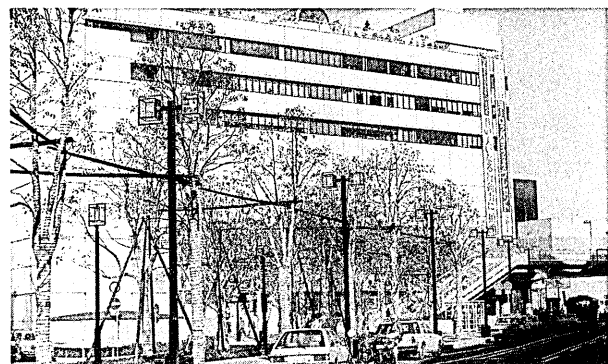
2代目横浜駅



3代目横浜駅（昭和26年）



現在の横浜駅東口（昭和56年）



年	月日	項目
1923	大正12年	(9.1) <関東大震災>
		(9.1) 関東大震災により2代目横浜駅倒壊、桜木町駅は焼失
1926	大正15年	2.14 東京横浜電鉄(現東京急行):丸子多摩川(現多摩川園)~神奈川開通
		3.10 鶴見臨港鉄道(現鶴見線):弁天橋~浜川崎、武蔵白石~大川開通(貨物専用線)
		5.12 神中鉄道(現相模鉄道):厚木~二俣川開通
		12.1 神中鉄道:二俣川~星川(現上星川)開通
1927	昭和2年	3.9 南武鉄道(現南武線):川崎~登戸開通
		(3.15) <山下公園開園>
		5.24 3代目横浜駅着工(現在の横浜駅)
		5.31 神中鉄道:星川~北程ヶ谷(現星川)開通
		8.28 東京横浜電鉄:渋谷~丸子多摩川開通
		(10.1) <区制施行:中、磯子、神奈川、保土ヶ谷、鶴見>
1928	昭和3年	5.18 東京横浜電鉄:神奈川~高島(現高島町)開通
		8.18 鶴見臨港鉄道:浜川崎~扇町開通(貨物専用線)
		10.15 3代目横浜駅開業、2代目横浜駅と神奈川駅は廃止
1929	昭和4年	2.14 神中鉄道:北程ヶ谷~西横浜開通
		6.22 京浜電気鉄道:神奈川~横浜(仮)駅(月見橋)開通
		12.12 南武鉄道:川崎~立川全線開通
1930	昭和5年	2.5 京浜電気鉄道:横浜(仮)駅~横浜駅開通
		4.1 湘南電気鉄道(現京浜急行):黄金町~浦賀、金沢八景~湘南逗子開通
		10.28 鶴見臨港鉄道:弁天橋~鶴見(仮駅)開通、電車による乗客輸送を開始
1931	昭和6年	(9.18) <満州事変が始まる>
		10.1 程ヶ谷駅が保土ヶ谷駅へと改称
		10.25 神中鉄道:西横浜~平沼橋開通
		12.26 京浜電気鉄道:横浜~日ノ出町開通
		湘南電気鉄道:黄金町~日ノ出町開通
		京浜電気鉄道と湘南電気鉄道が連絡完成
1932	昭和7年	3.31 東京横浜電鉄:高島屋~桜木町開通
		10.1 横浜線:東神奈川~原町田(現町田)電車運転開始
		桜木町へ乗り入れ
1933	昭和8年	4.1 京浜電気鉄道:国鉄品川駅へ乗り入れ
		品川~浦賀で湘南電気鉄道と相互直通運転を開始
		12.27 神中鉄道:平沼橋~横浜開通
1934	昭和9年	12.23 鶴見臨港鉄道:国鉄鶴見駅へ乗り入れ
1935	昭和10年	(3.26) <横浜復興大博覧会開催(山下公園)>
1939	昭和14年	(4.1) <港北区、戸塚区新設(7区)>
1941	昭和16年	4.5 横浜線:原町田~八王子電化(横浜線全線電化)
		11.1 京浜電気鉄道が湘南電気鉄道と合併(現京浜急行)
		(12.8) <太平洋戦争が始まる>

ている。開業後しばらくは「こだま」のみの停車駅であったが、昭和五十一年七月一日からは「ひかり」も停車（一日に上り下り各一本）するようになる。「ひかり」の停車本数は、市営地下鉄の横浜―新横浜間開通にあわせて昭和六十年に大幅に増加した。

#### ④横須賀線

海軍工廠のある横須賀までの鉄道建設は、軍部からの強い要請によるもので、明治二十二年六月十六日、大船―横須賀間（一六・二キロ）が開通した。この区間の電化は東海道線と同時に進められた（大正十四年）、横須賀から久里浜まで開通したのは昭和十九年であった。昭和五十五年十月からは東海道線と分離され、東戸塚駅が開業している。

#### ⑤京浜東北線・根岸線

京浜間の電車運転は、大正三年十二月二十日、東京駅の開業からはじまる。横浜では二代目横浜駅が建設中で、この電車運転に対応するため高島町に電車専用の仮ホームが設置された。二代目横浜駅の開業にあわせて電車も横浜駅に乗り入れ、同じ大正四年の十二月三十日からは電車運転が桜木町駅まで延長されている。当時この電車は院電（院線電車）と呼ばれていた。太平洋戦争がはじまると、軍需工場への通勤のため、昭和十八年に新子安駅が開業した。「京浜東北線」という名称が一般に普及するようになったのは戦後のことである。

日本最初の鉄道が開通して以来、桜木町駅から市中心部関内方面への鉄道延伸は長い間行われなかった。根岸線として桜木町からの延伸線が開通したのは昭和三十九年五月十九

日で、桜木町―磯子まで（七・八キロ）が開通した。その後、昭和四十五年には洋光台まで延伸され、昭和四十八年に大船まで全線が開通した。

#### ⑥横濱線

横濱の豪商原善三郎らによって設立された横濱鉄道は、明治四十一年九月二十三日に東神奈川―八王子間（四二・六キロ）で開業した。しかし、会社設立の際に、いつでも政府の買収に応じる旨の条件が付され、一年半後の明治四十三年に政府が借り上げ、大正六年には政府により買収され、横濱線となった。

横濱線が全線電化されたのは昭和十六年四月五日で、横濱市内では昭和二十二年に大口駅が開設された後、沿線の宅地開発が進むにつれて昭和三十七年に鴨居駅、昭和三十九年に新幹線との乗換駅である新横濱駅、昭和五十四年には十日市場駅がそれぞれ開設されている。

#### ⑦鶴見線

大正十五年三月十日、鶴見臨港鉄道が弁天橋―浜川崎間（三キロ）と武蔵白石―大川間（二キロ）に貨物専用の鉄道を開通させたのがはじまりである。その後、昭和三年に浜川崎―扇町が開通、旅客輸送は昭和五年十月二十八日の弁天橋―鶴見駅間開通時より始められた。

国鉄が買収したのは戦時中の昭和十八年。昭和四十六年三月一日には全線十二駅がすべて無人化された。

#### ⑧南武線

南武線（川崎―立川）のうち、矢向駅だけが横濱市内に位置している。南武線も横濱線

や鶴見線と同じく、開業当初は民間鉄道であった。昭和二年三月九日に南武鉄道が川崎―登戸間（一七キロ）で開業したのがはじまりである。川崎―立川の全線が開通したのは昭和四年のことで、昭和十九年には国鉄に買収され、国鉄南武線となった。

#### ⑨京浜急行

京浜急行の電車開業は明治三十二年、京都電気鉄道、名古屋電気鉄道に次いで日本で三番目の電車として、大師電気鉄道が六郷橋―川崎大師間で営業を開始したのがはじまりである。同年社名を京浜電気鉄道へと改め、横濱市内へ乗り入れたのは明治三十八年十二月二十四日（品川―神奈川間）である。また昭和五年二月五日には、三代目横濱駅まで延伸された。

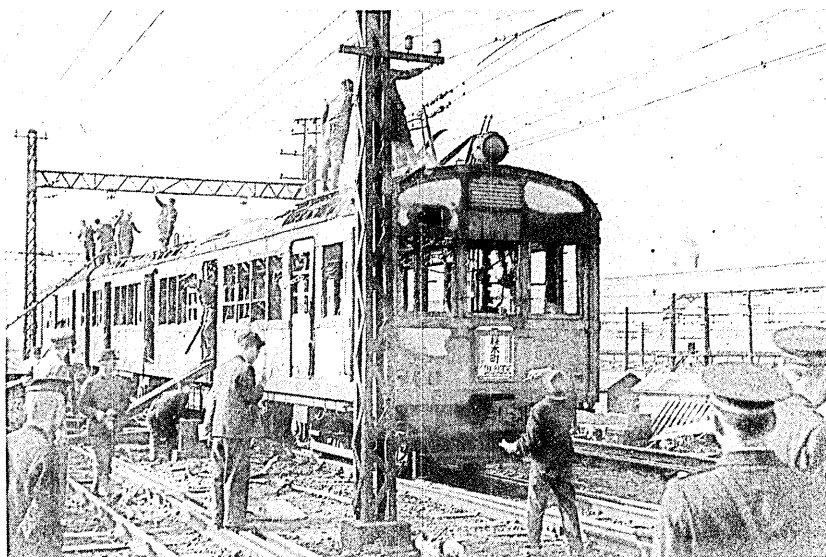
一方、三浦半島方面からは湘南電気鉄道が鉄道建設を行い、昭和五年四月一日に黄金町―浦賀間と金沢八景―湘南逗子間で開業した。この湘南電気鉄道と京浜電気鉄道はそれぞれ日ノ出町まで延伸し、昭和六年十二月二十六日に連絡が完成する。両鉄道は昭和十六年に合併、戦時中は東京急行電鉄と合併されるが、戦後昭和二十三年六月から京浜急行として分離・再発足している。

#### ⑩東京急行

（東横線・田園都市線・こどもの国線）  
東京急行の母体は大正十二年に開業した目黒蒲田電鉄であったが、横浜での鉄道開業はその姉妹会社である東京横濱電鉄による丸子多摩川（現在は多摩川園）―神奈川（廃止）

年	月日	項目
1942 昭和17年	5.1 (10.1)	東京横浜電鉄、小田急電鉄、京浜電気鉄道が合併、東京急行電鉄となる <横浜市人口100万人突破 (1,015,900人)>
1943 昭和18年	4.1 7.1 11.1 (12.1)	相模鉄道が神中鉄道と合併 鶴見臨港鉄道を国鉄が買収 (国鉄鶴見線) 新子安駅開業 <南区新設 (8区)>
1944 昭和19年	4.1 (4.1)	横須賀線：横須賀～久里浜開通 南武鉄道を国鉄が買収 (国鉄南武線) <西区新設 (9区)>
1945 昭和20年	(5.29) (8.15) (11.1)	<横浜大空襲> <終戦、日本無条件降伏> <横浜市人口624,994人 (人口調査)>
1946 昭和21年	(11.3)	<日本国憲法公布>
1947 昭和22年	(4.17) 12.20	<地方自治法公布> 横浜線大口駅開業
1948 昭和23年	(5.15) 6.1	<金沢区新設 (10区)> 東京急行電鉄より小田急電鉄、京浜急行電鉄、京王帝都電鉄が分離・再発足
1949 昭和24年	(3.15)	<日本貿易博覧会開催 (野毛、反町)>
1950 昭和25年	(10.21)	<横浜国際港都建設法公布>
1951 昭和26年	4.24 (9.15)	桜木町駅で電車火災 (桜木町事件) <横浜市人口再び100万人突破>
1956 昭和31年	(12.18)	<日本、国連に加盟>
1958 昭和33年	(5.10)	<開港100年記念行事開催 (横浜公園)>
1959 昭和34年	7.16 12.1	トロリーバス開業 (三ツ沢西町～横浜駅西口～常盤園前) トロリーバス：三ツ沢西町～常盤園前開通、循環運転開始
1962 昭和37年	(8.1) 12.25	<横浜市人口150万人突破> 横浜線鴨居駅開業
1964 昭和39年	5.19 10.1 (10.10)	根岸線：桜木町～磯子開通 東海道新幹線：東京～新大阪開通 <東京オリンピック開催>
1966 昭和41年	(3.31) 4.1 5.2	<日本の総人口1億人突破> 東急田園都市線：溝の口～長津田開通 ドリームモノレール (ドリーム交通)：大船～ドリームランド開通
1967 昭和42年	4.28 9.24	東急こどもの国線：長津田～こどもの国開通 ドリームモノレール (ドリーム交通) 運転休止
1968 昭和43年	4.1 (4.22)	東急田園都市線：長津田～つくし野開通 <横浜市人口200万人突破>
1969 昭和44年	(10.1)	<港南、旭、緑、瀬谷の4区新設 (14区)>
1970 昭和45年	3.17	根岸線：磯子～洋光台開通

桜木町事件 (昭和26年)



間（一四・六キロ）が最初である。昭和二年には渋谷まで延伸され、横浜側では昭和三年に高島町まで、昭和七年には桜木町まで開通している。東京横浜電鉄は昭和十七年に小田急電鉄、京浜電気鉄道と合併して東京急行電鉄となった（昭和二十三年分離・再発足）。

昭和十八年に大井町線として溝の口まで開通していた路線を、多摩丘陵の宅地開発にあわせて横浜線との接続駅長津田まで延伸、昭和四十一年四月一日に開通したのが田園都市線である。田園都市線はその後順次延伸し、昭和五十九年に中央林間まで開通している。

また昭和四十二年四月二十八日には、長津田〜こどもの国間（三・四キロ）でこどもの国線が開通している。

#### ④ 相模鉄道

相模鉄道の前身は、大正十五年五月十二日に厚木〜二俣川間で開業した神中鉄道である。神中鉄道は三代目横浜駅に向けて順次延伸開通を重ね、昭和八年十二月二十七日横浜駅へ乗り入れた。昭和十八年には現在のJR相模線を経営していた相模鉄道に合併されたが、相模線は昭和十九年国に買収されている。

相鉄いずみ野線は、昭和五十一年四月八日に二俣川〜いずみ野間で開通、平成二年にはいずみ中央まで開通し、現在、小田急江ノ島線湘南台駅まで延伸建設を行っている。

#### ⑤ 横浜市営交通

（市電・トロリーバス・地下鉄）

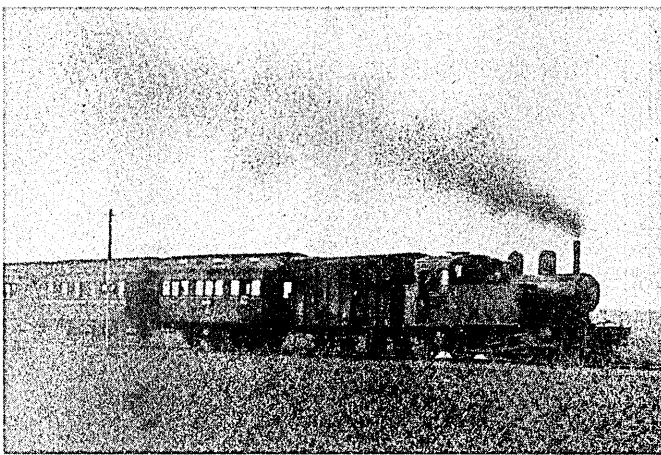
横浜の市電は明治三十七年七月十五日、横浜電気鉄道による神奈川〜大江橋間の開通に

はじまる。大正十年四月に横浜市が買収して市営電車となり、営業規模も拡大、昭和十九年には営業四八・七八キロ、一日平均三十五万八千人の利用があった。戦後も昭和三十年代に営業五一・七九キロ、一日平均三十、三十三万人の乗客を輸送していた。

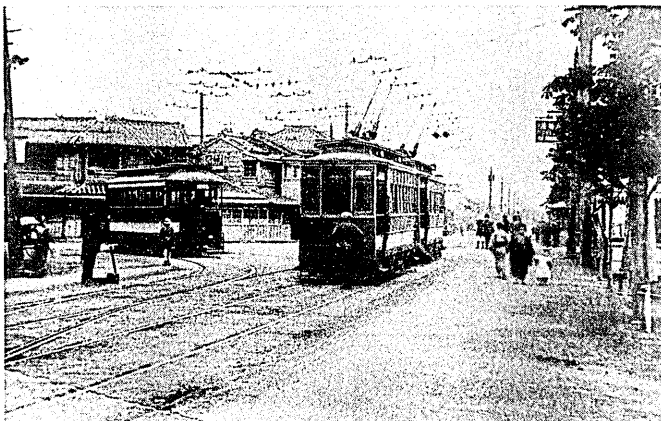
トロリーバスは正式には「無軌条電車」という。市電の経営が悪化する中で、路面電車より経費が少なくてすみ、バスよりも輸送力が大きい交通機関として、昭和三十四年七月十六日、三ツ沢西町〜横浜駅西口〜常盤園前（七・七四キロ）で開通、同年十二月には三ツ沢西町〜常盤園前を結び、全長九・四八キロの循環線として運行した。

市電は昭和四十一年から順次路線が廃止され、昭和四十七年三月三十一日の営業限りで

神中鉄道



市電（横浜電気鉄道時代：現在の阪東橋付近）



横浜電気鉄道株式会社日本橋支店

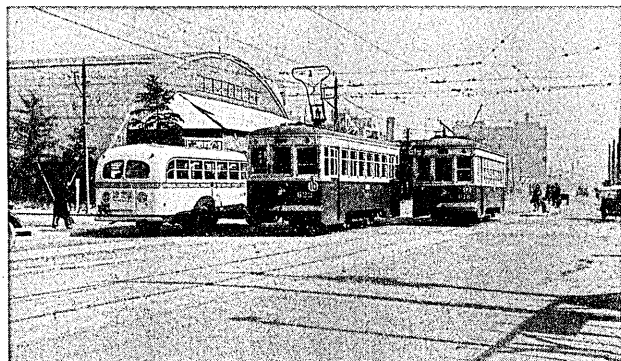
トロリーバスとともに廃止された。かわって同年十二月十六日、市営地下鉄が上大岡〜伊勢佐木長者町間（五・二キロ）で開業した。市営地下鉄はその後延伸開通を重ね、平成五年三月十八日の新横浜〜あざみ野間開通により、現在戸塚〜あざみ野間三三・〇キロで営業を行うとともに、戸塚〜湘南台間の延伸建設が進められている。

#### ⑥ その他

この他に横浜市内には、ドリームモノレール、金沢シーサイドライン、建設中のみなどみらい21線がある。

ドリームモノレール（ドリーム交通）は、昭和四十一年五月二日に大船〜ドリームランド間で開業したが、軌道の問題から翌年には

市電（昭和25年：長者町5丁目）



年	月日	項目
1971	昭和46年	3.1 鶴見線：全線12駅を無人化
1972	昭和47年	(2.3) <冬季オリンピック札幌大会開催>
		3.31 市電・トロリーバス、この日の営業限りで廃止
		4.1 東急田園都市線：つくし野～すすかけ台開通
		12.16 市営地下鉄：上大岡～伊勢佐木長者町開通
1973	昭和48年	4.9 根岸線：洋光台～大船開通（全線開通）
		(11.1) <横浜市人口250万人突破>
1976	昭和51年	4.8 相鉄いずみ野線：二俣川～いずみ野開通
		7.1 東海道新幹線：ひかり号新横浜停車（1日に上下各1本）
		9.4 市営地下鉄：伊勢佐木長者町～横浜、上大岡～上永谷開通
		10.15 東急田園都市線：すすかけ台～つきみ野開通
1978	昭和53年	(4.4) <横浜スタジアム開設>
		(5.1) <横浜市人口大阪市を抜き全国第2位となる>
1979	昭和54年	4.1 横浜線十日市場駅開業
1980	昭和55年	10.1 横須賀線が東海道線と分離、東戸塚駅開業
1981	昭和56年	(12.20) <横浜市総合計画「よこはま21世紀プラン」策定>
1983	昭和58年	(11.8) <みなとみらい21事業起工>
1984	昭和59年	4.9 東急田園都市線：つきみ野～中央林間開通
1985	昭和60年	3.14 市営地下鉄：横浜～新横浜、上永谷～舞岡開通
		(12.2) <横浜市人口300万人突破>
1986	昭和61年	(11.3) <栄区、泉区新設（16区）>
1987	昭和62年	4.1 国鉄民営化、JR発足
		5.24 市営地下鉄：舞岡～戸塚開通（戸塚駅は暫定開業）
1989	平成元年	(3.25) <横浜博覧会開催（みなとみらい21地区）>
		7.5 金沢シーサイドライン（横浜新都市交通）：新杉田～金沢八景（暫定駅）開通
		8.27 市営地下鉄：戸塚駅本格開業
		(9.27) <横浜ベイブリッジ開通>
1990	平成2年	4.4 相鉄いずみ野線：いずみ野～いずみ中央開通
1992	平成4年	11.24 横浜高速鉄道：みなとみらい21線起工
1993	平成5年	3.18 市営地下鉄：新横浜～あざみ野開通
		(7.14) <横浜ランドマークタワー竣工>
		(12.24) <「ゆめはま2010プラン」長期ビジョン策定>
1994	平成6年	2.4 市営地下鉄：戸塚～湘南台間起工
		10.14 第1回「鉄道の日」（10月11日～20日「鉄道の旬間」）
		(11.6) <青葉区、都筑区新設（18区）>



運行をとりやめ、現在運行休止中である。新交通システム・金沢シーサイドライン（横浜新都市交通）は、平成元年七月五日に新杉田（金沢八景（暫定駅）間で開通、みなどみらい21線（横浜高速鉄道）は平成四年十一月二十四日から着工され、現在建設中である。

〈参考文献〉

- (1) 長谷川弘和・古川文夫「かながわの鉄道」神奈川合同出版・かもめ文庫（一九七八年）
- (2) 横浜学公開講座12：長谷川弘和「横浜と鉄道」横浜学連絡会議（一九九四年）
- (3) 三島富士夫・宮田道一「鉄道と街・横

浜駅」大正出版（一九八五年）

(4) 東京南鉄道管理局「汐留・品川・桜木町駅百年史」（一九七三年）

(5) 京浜急行電鉄株式会社「京浜急行八十年史」（一九八〇年）

(6) 相模鉄道株式会社「相鉄七十年史」（一九八七年）

(7) 宮田道一「日本の私鉄8・東急」保育社（一九八一年）

(8) 横浜市「図説・横浜の歴史」（一九八九年）

(9) 横浜市企画調整局「港町・横浜の都市形成史」（一九八一年）

(10) 横浜市交通局「ちんちん電車―ハマッ

子の足70年」（一九七二年）

(11) 横浜市交通局「横浜市高速鉄道建設史」（一九八七年）

本稿の作成にあたっては、横浜市内在住の鉄道研究者である長谷川弘和氏より監修・協力をいただいた。また、掲載した写真はすべて長谷川氏より提供いただいたものである。ここに記して感謝の意を表する。

長谷川弘和（はせがわ ひろかず）

齒科医院経営・大正十四年生まれ  
鉄道友の会神奈川サークル代表